

I 野菜の概況

1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成20年度（概算）は94.2kgと、平成19年度の94.5kgと比べ0.3kg減少した。

これに対し、野菜の生産量は、平成19年度は1,253万トンであったが、平成20年度（概算）は1,265万トンと12万トン増加した。

また、野菜の輸入量は、平成20年度の野菜の輸入量は281万トン（生鮮換算ベース）で、前年比93.9%と大幅に減少した。

この結果、平成20年度（概算）の野菜の自給率は、前年度から1ポイント上昇して82%となった（表1）。

表1 野菜の需給動向

(1) 平成20年度（概算値）

人口127,692千人（平成20年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳						
	生産量	輸入量	輸出量	増減量			仕向量	飼料用加工用種子用	減耗量	粗食料		純食料	供給数量
										総数	1人1年当たり		
野菜	12,654	2,810	13	0	15,451	0	1,567	13,884	108.7	12,026	94.2		
a. 緑黄色野菜	2,754	1,353	3	0	4,104	0	391	3,713	29.1	3,472	26.8		
b. その他の野菜	9,900	1,457	10	0	11,317	0	1,176	10,171	79.7	8,599	67.3		
野菜	12,654	2,810	13	0	15,451	0	1,567	13,844	108.7	12,026	94.2		
1. 果菜類	3,479	1,430	2	0	4,907	0	483	4,424	34.6	3,670	28.7		
うち果実的野菜	817	67	0	0	881	0	107	777	6.1	532	4.2		
2. 葉茎菜類	6,058	730	4	0	6,784	0	844	5,940	46.5	5,209	40.8		
3. 根菜類	3,117	650	7	0	3,760	0	240	3,520	27.6	3,147	24.6		

資料：農林水産省「食料需給表」

(2) 平成19年度（確定値）

人口127,771千人（平成19年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳						
	生産量	輸入量	輸出量	増減量			仕向量	飼料用加工用種子用	減耗量	粗食料		純食料	供給数量
										総数	1人1年当たり		
野菜	12,527	2,992	14	0	15,505	0	1,572	13,933	109.0	12,069	94.5		
a. 緑黄色野菜	2,748	1,406	4	0	4,150	0	394	3,756	29.4	3,475	27.2		
b. その他の野菜	9,779	1,586	10	0	11,355	0	1,178	10,177	79.7	8,594	67.3		
野菜	12,527	2,992	14	0	15,505	0	1,572	13,933	109.0	12,069	94.5		
1. 果菜類	3,481	1,455	2	0	4,934	0	486	4,438	34.8	3,692	28.9		
うち果実的野菜	834	64	0	0	898	0	107	791	6.2	637	4.2		
2. 葉茎菜類	5,955	839	6	0	6,788	0	844	5,944	46.5	5,206	40.7		
3. 根菜類	3,091	698	6	0	3,783	0	242	3,541	27.7	3,171	24.8		

資料：農林水産省「食料需給表」

(3) 食料自給率

（単位：%）

	昭和40年度	50	60	平成7年度	14	15	16	17	18	19	20（概算）
供給熱量ベースの総合食料	73	54	53	43	40	40	40	40	39	40	41
野菜	100	99	95	85	83	82	80	79	79	81	82

資料：農林水産省「食料需給表」

2 野菜の価格動向

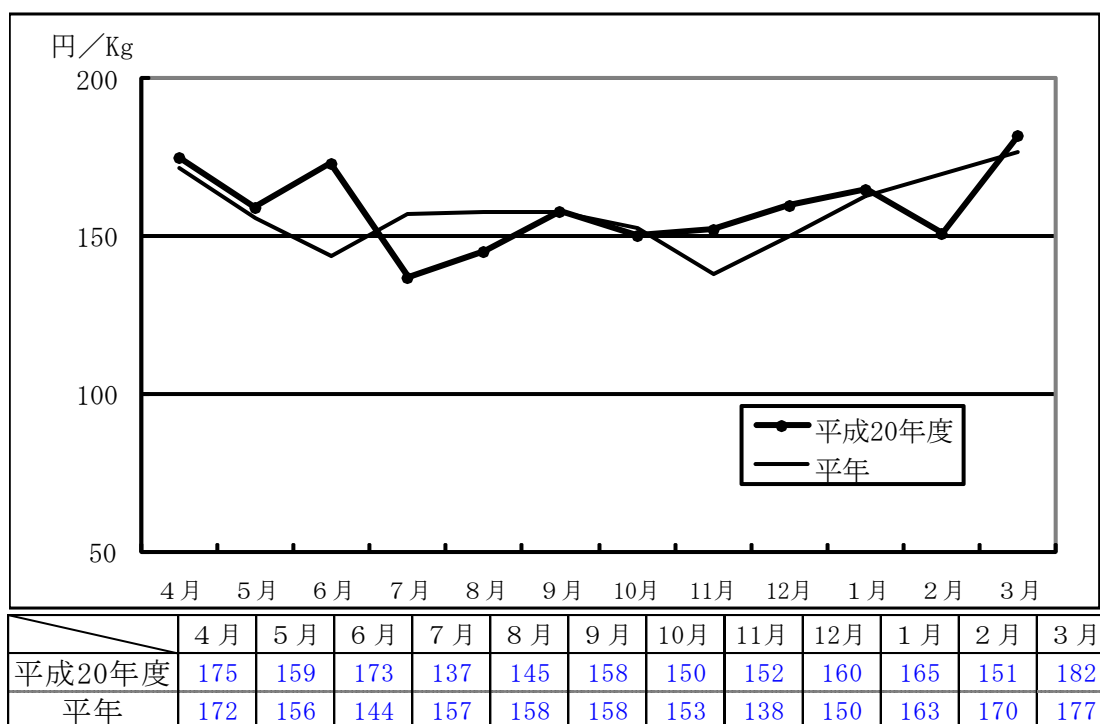
平成20年産の春野菜は、2月の低温、5月の台風等の影響から、平年に比べ入荷量が少なく、総体的に平年を上回る価格で推移した。

夏秋野菜については、7月以降気温が高めに推移し、主産地においては生育が良好で入荷量は平年並みとなったが、消費地における高温及び食品の値上げ等により消費が低迷し、キャベツ等の葉茎菜類を中心に価格は平年を大きく下回り、キャベツ、だいこんの緊急需給調整が行われた。

秋冬野菜については、11月以降における播種期の降雨や低温、曇天の影響から入荷量が平年を大きく下回り、価格は平年を上回って推移した。

また、年明け以降の価格は、天候に恵まれ気温も高かったことから生育が回復し、入荷量が増加したことから平年を下回ったが、3月には低温の影響で果菜類を中心に入荷量が減少したため、平年を上回った（図1）。

図1 指定野菜（14品目）の卸売価格の動向（東京都中央卸売市場）



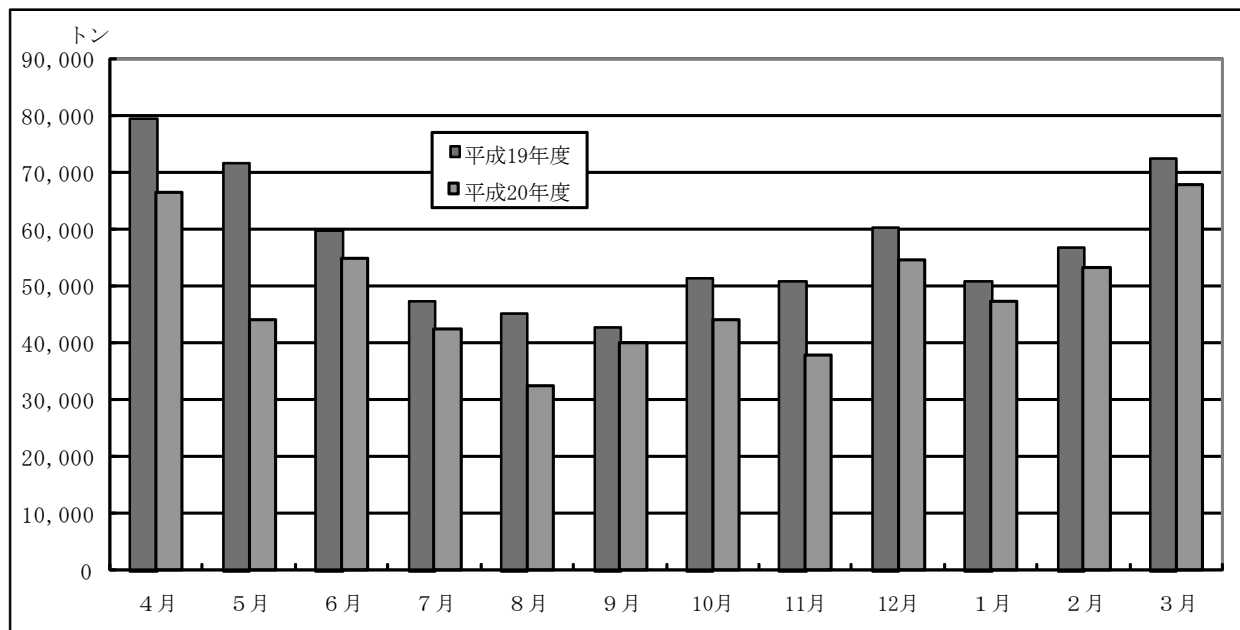
資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及び価格」

注：平年とは、過去5カ年（平成15年度～19年度）の月別価格の平均値である。

3 野菜の輸入動向

平成20年度の野菜の輸入は、中国産野菜に対する消費者の不信感が高まったことによる輸入量の減少により、前年比93.9%の281万トンとなり、このうち生鮮野菜は、前年比84.8%の9万トンと前年比84.8%となった(図2)。

図2 生鮮野菜の月別輸入量の推移(平成19年度及び20年度)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成19年度	79,465	71,857	59,943	47,395	45,195	42,761	51,597	50,893	60,430	50,912	56,989	72,560	689,997
平成20年度	66,374	44,163	54,786	42,488	32,340	40,057	44,116	37,815	54,571	47,363	53,307	67,770	585,151
対前年比													84.8%

資料：財務省「貿易統計」